

LWC指標で見る飯田市のウェルビーイング

近時は、まちづくりに関わる施策の面で、住民のウェルビーイング向上を成果指標にする動きが見られる。政府の「デジタル田園都市国家構想」でも、「デジタル技術の進展は、大都市の利便性と地域の豊かさを融合した、地域住民の『ウェルビーイング向上』のために用いられるべき」として

いる。すると何かしらのウェルビーイングを図る指標が必要となるが、デジタル田園都市国家構想では「Liveable Well-Being City指標（LWC指標）」というものを公表している。

そもそも何がウェルビーイングなのか、真に難しい問いだと思われるが、LWC指標では、様々な知見を基に、心（主観的幸福感）、行動（活動実績）、環境（生活環境）の三つに分類される56因子を用いて各自自治体の特徴を把握することができまる。

LWC指標の各客観指標は、オープンデータ上の数値を全国平均50の偏差値にしているが、まず、これによって飯田市の特徴を数点見る。

1、飯田市の環境因子

(1) LWCでは、環境面を右図の幾つかの統計データからなる因子を22分野に分けて偏差値を出している。右上図表は、LWCによって飯田市の環境因子を見たものである。

飯田市では、「文化、芸術」因子や「自然景観」因子の偏差値が70を超えているが、前者は人口当たり図書館数などで構成され、例えば小さな村に1か所でも図書館があればこの指標は高くなる。とはいえ、飯田市には市立図書館だけで5か所あり、近隣の伊那市の文化、芸術因子偏差値69.6（人口6.8万）、飯田市と人口が同規模の佐久市57.7、リニア中間駅である中津川市55.8(人口7.9万)などに比べて高く、文化、芸術に注力してきたのも確かであるように思われる。

一方、「公共空間」因子や、「デジタル生活」因子では偏差値が30台となっている。「公共空間」では、人口あたり公園面積では概ね中位も、公園緑地徒歩圏人口カバー率、歩道設置率で大きく数値を落としている。

(2) 前述のとおり、22の各因子はいくつか統計データ（客観KPI）を合成して作られているが、リニア中

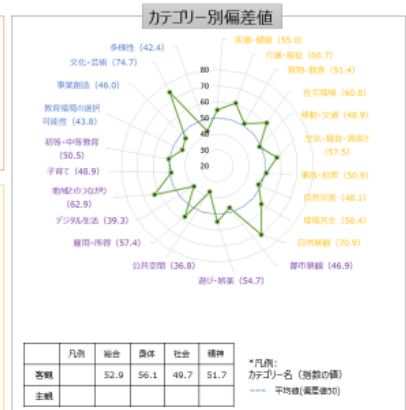
飯田市のLWC指標

概要

人口	約9.8万人	高齢化率	33%
可住地人口密度		昼夜間人口比率	
都市の特徴・周辺地域との関わり	長野県南部に位置する、南信地方の中心都市。		
将来都市像	「2050年、飯田は日本一住みたいまちになる」 魂魂文化都市		

サマリー

- 「文化・芸術」の指標が因子の中では最も高い(74.7)。その理由としては、人口あたりの図書館、博物館、劇場の数が多くが挙げられる。次に高いのが「自然景観」(70.9)で、天龍峡が天竜奥三河国定公園に含まれていること、景観重要樹木があることなどが理由として考えられる。偏差値70を超えるのはこの2つで、偏差値60以上では「地域とのつながり」(62.9)、「介護・福祉」(60.7)となっている。
- 一方、因子の中で低い指標は「公共空間」(36.8)、「デジタル生活」(39.3)、「雇用・所得」(57.4)と比較的高めである。これは算出根拠として、課税所得の項目以外に、失業率、正規雇用者比率、高齢者有業率などが含まれていることが要因と考えられる。



LWC指標の比較					
因子		飯田市	伊那市	佐久市	中津川市
身体 に関わる 生活環境	医療・健康	55.0	59.2	55.1	51.8
	介護・福祉	60.7	50.6	58.0	56.0
	買物・飲食	51.4	44.0	44.6	45.7
	住宅環境	60.8	63.4	59.7	62.5
	移動・交通	48.9	45.6	44.8	43.5
	空気・騒音・清潔さ	57.5	57.6	57.7	54.1
	自己・犯罪	50.9	49.8	46.1	54.0
	自然災害	48.1	49.8	60.0	55.5
社会 に関わる 生活環境	環境共生	56.4	58.2	53.2	52.7
	自然景観	70.9	70.9	56.3	56.3
	都市景観	46.9	36.0	57.9	57.9
	遊び・娯楽	54.7	62.1	48.8	49.6
	公共空間	36.8	31.2	40.3	35.1
	雇用・所得	57.4	56.4	51.6	56.4
	デジタル生活	39.3	52.8	38.5	48.4
	地域とのつながり	62.9	58.8	59.8	56.6
精神 に関わる 生活環境	子育て	48.9	47.5	46.6	49.7
	初等・中等教育	50.5	51.6	49.5	56.1
	教育選択の可能性	43.8	45.7	45.6	43.0
	事業創造	46.0	46.4	44.5	45.1
	文化・芸術	74.7	69.6	57.7	55.8
	多様性	42.4	42.8	47.3	55.0

中央新幹線が通過する当地域と、甲府、中津川の各中間駅設置自治体との比較を試みるために、各因子を構成する統計データを詳細に示したものが右図である。

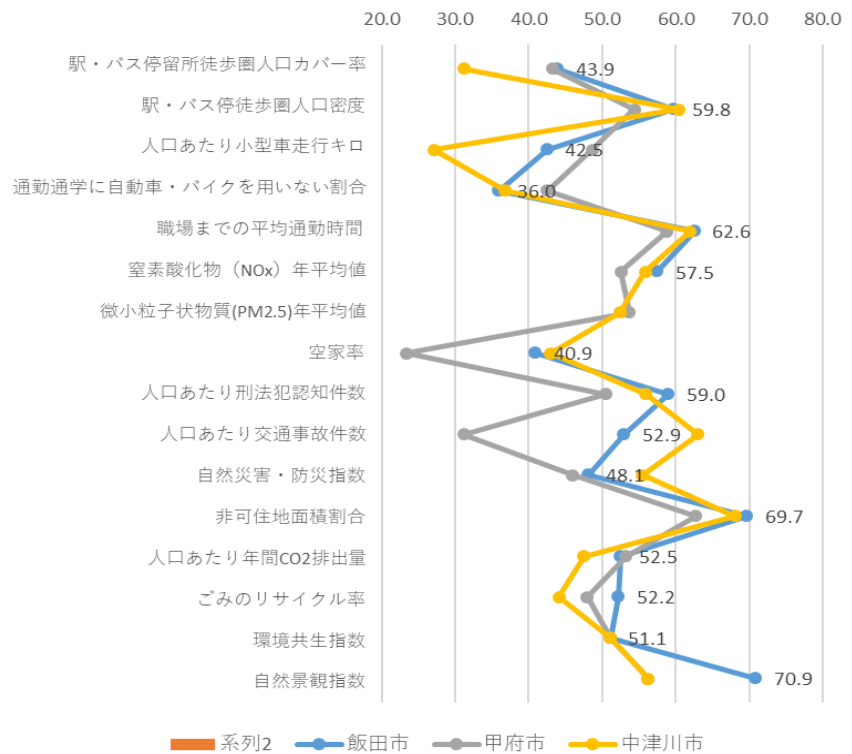
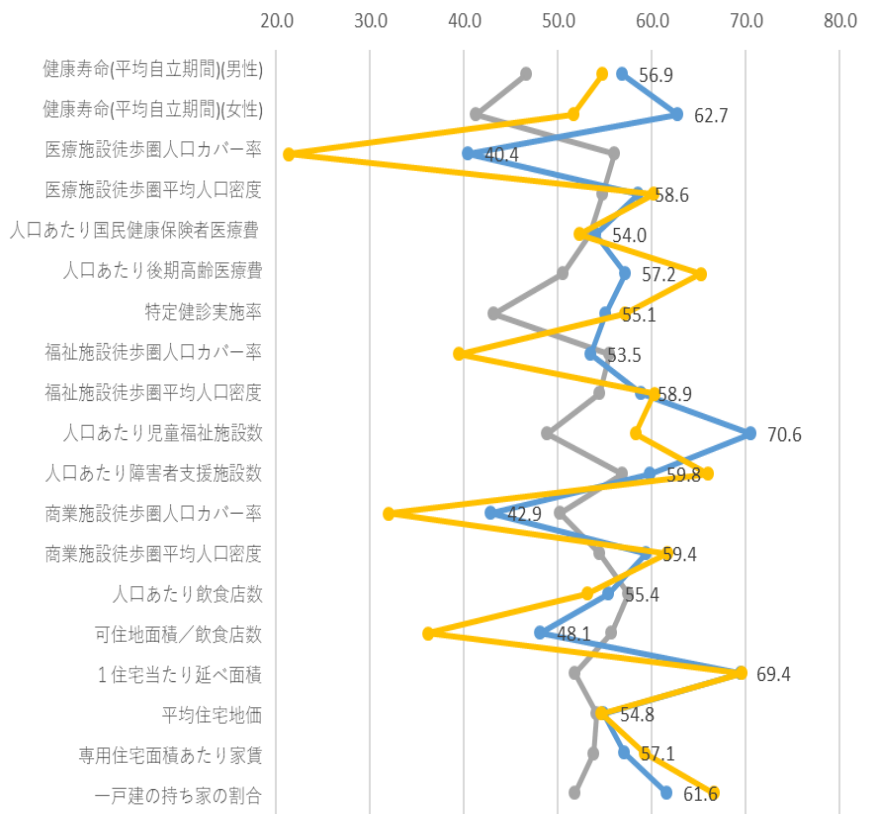
商業施設徒歩圏人口に関する指標をみると、中津川市の徒歩圏平均人口密度は61.6である一方、徒歩圏人口カバー率は32.0となっている。徒歩圏人口カバー率とは、徒歩圏（通常は施設からの距離800メートル）に住む人口の、全人口に対する割合を差すので、上記の中津川市の結果は、人口集積地に商業施設がある一方で、その施設に徒歩で行けるといふ恩恵を受ける人の割合が小さいということの意味する。飯田市の徒歩圏平均人口密度は59.3、徒歩圏人口カバー率42.9となっており、中津川市ほど極端ではないが、同様の傾向があると言えるのではないかと。一方、甲府市は徒歩圏平均人口密度54.4、徒歩圏人口カバー率50.2となっており、いずれも偏差値50を上回っている。

同様の傾向は医療施設についても当てはまると思われる。中津川市の徒歩圏平均人口密度は60.2である一方、徒歩圏人口カバー率は21.3となっている。飯田市の徒歩圏平均人口密度は58.9、徒歩圏人口カバー率40.4、甲府市は徒歩圏平均人口密度54.8、徒歩圏人口カバー率56.0である。

一方、福祉施設について見ると多少違った光景が見えるように思われる。中津川市の徒歩圏平均人口密度は60.2、徒歩圏人口カバー率は39.4で商業施設や医療施設と同様の傾向となっているが、飯田市の徒歩圏人口密度は58.9、徒歩圏人口カバー率53.5、甲府市は徒歩圏人口密度54.4、徒歩圏人口カバー率55.1である。

飯田市でも徒歩圏人口カバー率の偏差値が50を超えており、甲府市並みに人口密集地に徒歩でアクセスできる場所に福祉施設が配置されていると言えるのではないかと。

LWC比較 身体的健康に関する客観KPI



■ 系列2 ■ 飯田市 ■ 甲府市 ■ 中津川市

徒歩圏人口カバー率は都市構造を現わしているとされることが多いが、総じて甲府市に比べると、飯田市、中津川市は、人口カバー率が低い傾向があり、市域内で人が分散して居住している一方、商業、医療施設は人口密度の高い場所に多く設置されている傾向があるのではないかと。

(3) 交通に関する指標をみると、駅・バス停留所徒歩圏人口平均密度では、飯田市59.8、中津川市60.4、甲府市54.4となっている。3都市とも偏差値50を超えているところを見ると、比較的人口が多い場所に設置されているように思われる。一方、駅・バス停留所徒歩圏人口カバー率を見ると、飯田市43.9、甲府市43.2とほぼ同様の偏差値となっているが、中津川市は31.2となっている。飯田市、甲府市では、中津川市ほど極端ではないにしても、駅、停留所は人口の多い場所に設置されているものの、アクセスの利便性はさほど高くない傾向があるように思われる。

一方、飯田市の人口当たり小型車走行キロの偏差値が42.5（中津川市27.1、甲府市48.6）、通勤通学に自動車・バイクを用いない割合の偏差値36.0（中津川市36.8、甲府市42.5）で、いずれも偏差値50には届いていないことから見ると、3都市とも車社会と言えるのではないかと。

(4) 住宅に関する指標をみると、平均住宅地価について、3都市であまり大きな差は見られない（飯田市54.8、甲府市54.1、中津川市54.6）。1住宅当たり延べ面積（飯田市69.4、甲府市51.8、中津川市69.6）、一戸建の持ち家の割合（飯田市61.6、甲府市51.8、中津川市66.6）を見ると、飯田市、中津川市は、甲府市と比べて持家割合が高く、住宅面積も広いと言えるだろう。専用住宅面積当たり家賃は、飯田市57.1、甲府市53.8、中津川市59.2となっており、飯田市、中津川市に比べ甲府市の賃料がやや高めだと思われる。

ところで、空家率を見ると、飯田市は40.9、中津川市43.0に比べ、甲府市23.3で、目下のところ理由は定かではないが、甲府市の空家率は飯田市、中津川市に比べ高い。

2、令和3年度（2021年度）市民の意識に関する基礎世論調査とLWC指標

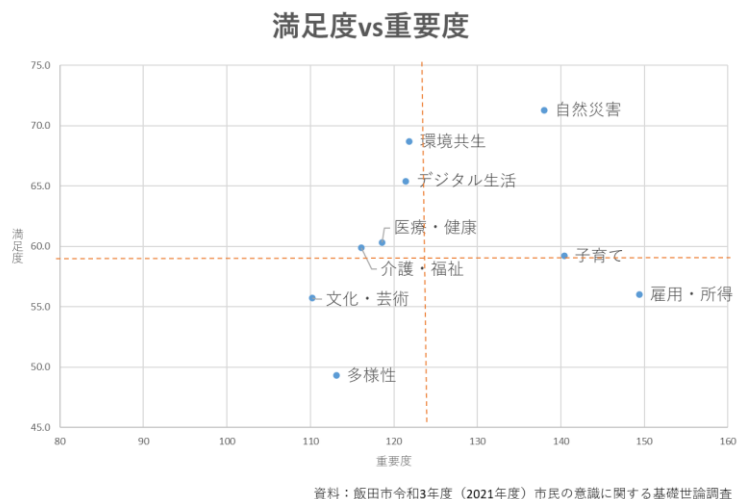
(1) 飯田市では平成19年度から市民意識調査を行っている。令和3年度は、住民基本台帳から、地区・男女・年齢別人口比率を調整した上で、満20歳以上の2,000人を無作為抽出して調査対象とし、男女832人から回答を得ている。

この中で、市の総合計画で、令和3年度から令和6年度まで4年間の重点テーマとして取り組む基本目標の内、「稼ぎ、安心して働ける魅力ある産業をつくる」（雇用・所得）、「文化・スポーツを通じて地域の輝き・うらおいをつくる」（文化・芸術）、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」（子育て）、「市民総健康と生涯現役をめざす」（医療・健康）、「共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる」（介護・福祉）、「個性を尊重し、多様な価値観を認め、活動の場を広げる」（多様性）、「地球環境への配慮の暮らしとまちづくりの推進」（環境共生）、「災害等に備え、社会基盤を強化し、防災力の向上を図る」（自然災害）について、「次の政策のうち、充実していると思うものは何ですか」（満足度）、「次の政策のうち、今後力を入れるべきだと思うものは何ですか」（重要度）を尋ね、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思わない」「全くそう思わない」「分からない」の5件法で回答を得ている。

右の図は、各重点テーマの満足度と重要度について、「そう思う」に2点「どちらかと言えばそう思う」1点を与えて作成した散布図で、点線は平均得点である。

これを見ると、例えば「雇用・所得」で重要度が高い割に満足度が低く、また「子育て」で重要度が高く、満足度は平均得点程度、「自然災害」で重要度が比較的高く、満足度も比較的高かった。

この中で、「子育て」について、LWC客観KPIの偏差値を検討してみる。



(2) 子育て、初等中等教育に関するLWC因子の偏差値を見ると、子育て48.9、初等中等教育50.5で、概ね全国並みとなっている。近隣市町村と比べても大きな差は見られないように思われる。市民アンケートで子育てに関する政策に対する満足度が、他の政策の満足度の平均並みだったことが想起される。

ところで、IWC因子を構成する客観KPIを見ると、「保育所まで1km未満の住宅割合」が、偏差値50には届いていないものの、近隣市町村に比べれば良好となっている。

LWC指標では各種のアンケート調査を行っており、これも偏差値化されている。子育てに関すると思われるアンケート項目はあまり多くはないが、「私の住んで

いる地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい」とする回答（「しょっちゅうあった」、「頻繁ではないが数回あった」、「1～2回あった」、「ほぼなかった」の4件法）の偏差値が僅かに50を超えている。その要因は複雑なものであろうが、LWC客観KPIだけで見れば、近隣市町村と比べたときの児童福祉施設としての保育所（児童福祉法）へのアクセスの良さは、あるいは一つの要因となっているのかもしれない。

(図表出所は、特に断りのない限り、すべてLWC指標再編加工)

LWC因子(再掲)	飯田市	伊那市	佐久市	中津川市
子育て	48.9	47.5	46.6	49.7
初等・中等教育	50.5	51.6	49.5	56.1
LWCアンケート調査				
将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい。	53.7			
通りで遊ぶ子供たちの声を聞いた	48.4			
私の暮らしている地域では、結婚して子どもを持つことが女性の幸福だと考	45.3			
私の住んでいる地域では、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	50.6			
LWC客観KPI				
保育所まで1km未満の住宅の割合	40.1	28.2	25.9	25.8
可住地面積あたり幼稚園数	40.7	40.9	41.7	42.3
一施設あたり幼稚園児数		63.1	53.6	62.1
人口あたり待機児童数	54.2	54.2	54.2	54.2
合計特殊出生率	67.6	62.2	57.7	62.1
歳出総額における教育費の構成比	42.1	36.1	46.3	51.8
可住地面積あたり小学校数	42.4	40.9	41.0	41.4
可住地面積あたり中学校数	43.0	41.6	41.9	43.1
可住地面積あたり高等学校数	45.1	44.4	44.8	44.6
一施設あたり小学生数	61.2	64.8	59.0	65.9
一施設あたり中学生数	57.9	56.5	53.2	69.9
一施設あたり高校生数	53.7	61.3	57.2	71.4
公園緑地徒歩圏人口カバー率	29.2	10.4	25.5	12.6
人口あたり公園の面積	48.7	47.0	49.1	46.1